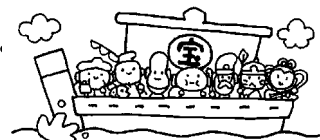


むくのきだより



1月号 平成28年1月8日 港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

子どもと遊ぶ

園長 小鹿原 賢

新年明けましておめでとうございます。今年は申年で、「悪いこと・病が去る」と言って、良いことや幸せがやってくるという意味があります。勝負事では「勝る」年で縁起が良い年であると言われます。申年にあやかり、子どもたちの健康・幸せと皆様方のご活躍をお祈りいたします。

赤羽幼稚園教職員一同は、本年も、豊かな教育環境や自然体験の中での遊びを通して、子どものより良い人間関係づくりや社会性を身に付けさせ、自立に向けた教育を重視してまいります。

「あいさつ・返事・ありがとう・しっかり聞いて・ていねいに」を教育のスローガンにして、努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

この宮の森の木下に子どもらと遊ぶ春日になりにつけらしも(良寛：1758～1831年)

子ども好きで知られた、ご存知 良寛 は、旅の途中で村の子どもたちと出会うと遊びを通して心から交流を楽しんでいたようです。時間に縛られず、お腹がすくまで遊びに没頭する子どもの世界に自ら入り込んでいく心の広さを感じます。冬休み中に出会った本から引用いたしました。「良寛 中野東禅 著」

今年のお正月は暖冬で、大変暖かい毎日でした。近所の公園に出てみると、幼稚園ぐらいの子どもが2人砂場で何やら遊んでいるようでした。よく見ると砂遊びではなく、電子ゲームのようでした。ほとんど無言でしたが、時折「ヤッター!ゲット!」を繰り返していました。近くには、子どもの姿を見守る親御さんがいて、携帯電話(スマートフォン)に夢中のような様子でした。時代が変わったと言われればそれまでですが、子どもの遊びと大人の関係は希薄化したように思いました。

この子どもの姿を見て、自分の小さい頃のお正月を思い出していました。私は東京の新宿生まれ・育ちでしたが、お正月は、箱根山という小高い丘のような山があり、そこで凧あげ遊びを興じていたように記憶しています。確か、凧あげを父親に教えてもらい、父も一緒になってあげていたのを思い出します。

平成28年が明けました。社会全体が、「欲」に傾き、子どもの成長にとって大切な本来の「遊び」が軽視されているように感じます。またそれを見守る大人たちの目も変化しているようです。私は、大人の文化に子どもを引きずり込んでしまった結果ではないかととらえています。

子ども本来がもつ遊びに入り込んでいく関係をつくり出していくことで、子どもの心を知ることができるのではないかと感じます。良寛のようにとはいきませんが、今年は子どもの遊びに、より加わっていこうかと思えます。ご家庭でも、親子での遊びを増やしてみてはいかがでしょうか。

